

東陽建設工機が描く安全と効率の次世代イノベーション

東陽建設工機株式会社は、高品質な鉄筋加工技術と先進的な自動化システムで建設業界に革命を起こしている。徹底した人材育成と卓越したグローバルサービスを軸に、安全で効率的な建設の未来を切り拓く。By Paul Mannion



Yasuo Tanaka,
President,
Toyo Kensetsu
Kohki Co., Ltd.

日本の建設業界に革新をもたらす企業がある。鉄筋加工機のパイオニア、東陽建設工機株式会社だ。地震大国の宿命を背負う日本において、同社は高品質な規格と革新的ソリューションの追求に邁進している。「地震大国日本で求められる厳格な基準と多様なニーズに応えるべく、我々は製品とサービスに絶対の自負を持っています」田中康雄社長はそう力強く語る。その自信の源泉は、同社が長年培ってきた人材育成にある。

「技術サービスと販売の双方に精通した人材の育成には、膨大な時間と忍耐を要するもの

ですが、これこそが創業以来、我々が最も重視してきた経営哲学なのです」と田中社長は強調する。この徹底した人材戦略により、同社の技術者たちは迅速かつ適切な対応力を身につけ、顧客満足度の最大化を実現している。

東陽建設工機の革新性は、その製品ラインナップにも如実に表れている。高度な自動化技術を駆使した鉄筋整列供給装置や、多様な事業規模と予算に対応可能なカスタマイズソリューションが、その代表例だ。とりわけ注目に値するのが、最新鋭の主筋自動曲装置「Gorilla」である。この新モデルには、TLINKSサービスが統合されており、加工状況のリモート管理を可能にしている。「TLINKSの統合は、遠隔管理の新時代の幕開けを告げるものです。今後も機能拡充を重ね、業界が直面する諸課題の解決に寄与していきます」と田中社長は意気込む。

同社の野心は国内市場にとどまらない。海外展開においても、現地の販売代理店との戦略的パートナーシップを通じ、日本と同等の高品質サービスの提供を実現している。特にアジア主要市場では、ローカライズされたサポート体制を構築。各国固有のニーズと、日本の先進的建設技術への世界的需要の両方に応えている。



自動切断機用の鉄筋整列供給装置

グローバルな防災意識の高まりを背景に、田中社長は未来を楽観視する。「いずれ全ての国と地域で、価格よりも品質が優先される時代が来ると確信しています」。その言葉には、揺るぎない自信が滲む。東陽建設工機は、絶え間ない革新と柔軟な適応力により、建設業界の最前線に立ち続けている。持続可能性、信頼性、安全性を重視したソリューションの提供—それは、同社が掲げる不変の使命なのである。



D16-D41用にアップグレードされた主筋自動曲装置



www.toyokensetsukohki.co.jp

